

授業と家庭学習のサイクルから、パフォーマンステストへ

授業と家庭学習をリンクさせながら、授業では「音読できるように！話せるように！」、家庭学習では「書けるように！」を意図して指導する。パフォーマンステストの課題は生徒と共有し、特に、「話すこと」については、動画の記録を蓄積することで、生徒の達成状況を総括的に把握し評価する。

授業

パフォーマンステストの課題を生徒と共有

家庭学習

目指す
生徒の姿

教科書を音読できる生徒
言いたいことが英語で話せる生徒

【帯活動】音読できるようになるために！

- 家庭学習で出したワークの答え合わせは、英単語のみではなく、当該単語を含む英文全体を生徒が読み上げながら、全員で○付けする。
(英文全体を読み上げることで、発音等の確認が可能)



【帯活動】話せるようになるために！

- クイックQ&A 即興的なやり取りをペアを替えながら行う。
(既習表現を活用させるとともに、疑問詞を徹底して活用させるために、適宜中間指導の実施)
- picture describing 写真を見て即興で英文を考えて伝え合う。
(毎時間繰り返し、パフォーマンステストとしてもALTに伝える場を定期的に設定することで、生徒の英語表現の積み上げへ)

【教科書の活用】(話せるようになるための基盤づくり) 自分の考えや気持ちを話せるようになるために！

- 単元を通して、自分の考えや気持ちを伝え合う場を設定する。
 - その基盤として、教科書本文の音読を徹底する。
(意味内容を十分理解した教科書本文を繰り返し音読することで、自己表現する際に使える英語表現の習得へ)
- ※授業で各ページ10回読むことを1年時から継続！
※焦点を絞った音読確認テストの実施！
(例えば、th/lに注意して読む、強弱に注意して読む 等)

【音読指導の例】

自力で読む、ジェスチャーをつけて読む、ペアで交互に読む、デジタル教科書を活用して繰り返し読む、オーバーラッピング、シャドーイング 等

目指す
生徒の姿

教科書を音読できる生徒
話せる英文が書ける生徒

【帯活動とリンク】音読できるようになるために！

- ワークは解答するだけでなく、英文全体が読めることまでを宿題とすることで、英単語の活用場面も学習することにつながる。
(読めない単語にはチェックを入れて、授業中に確認)
※聞いて分かる、読める、書ける、そして使えるまで！

【帯活動とリンク】書けるようになるために！

- 授業中にクイックQ&Aやpicture describingで言えるようになった英文を、writingマラソン(ワークシート)に書く。
(正しく書くことが目的、10文書き溜めたらその都度提出)

【教科書の活用】(話せるようになるための基盤づくり) 自分の考えや気持ちを話せるようになるために！

- 登場人物を表す表現一覧(行動/気持ち)をもとに、単元終末の教科書のretellのページをretellingできるように練習しておく。
(既習表現を活用して、retellingする時間を家庭学習に位置付け)
- 教科書本文の音読の徹底で、英語表現の習得につながる。
※家で各ページ25回読むことを、1年時から継続！
(5つ★読み:5回読んで★を1つ教科書の上部に記録×5回)

【パフォーマンステスト】 ■3年間を見通した計画的な課題の設定
※特に、「話すこと」のパフォーマンステストの状況は、動画で蓄積
⇒生徒はいつでも振り返ることができるため、自身の学びにつながる！
⇒教師は生徒の達成状況を総括的に把握することができる！

授業や家庭学習で培った力をパフォーマンステストで発揮できるように

達成状況の丁寧な見取り

令和4年度 宇土市立網田中学校

